

令和 7 年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園
長崎医療こども専門学校
日本語科

1. はじめに

本校は、学校運営における具体的な方針や対応の決定に関しては、運営陣と各教職員との風通しの良い環境と体制において行なっており、その中で、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度は、原点回帰として「教職員による自己評価」を例年以上に深掘りし、結果を基にその背景や原因を分析することとしました。また、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認を行ない、次回の学生による授業評価及び学校満足度評価や保護者ならびに卒業生からの評価に活かすことといたしました。

それらの結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、即戦力となる学生を社会に輩出して参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

教育方針及び教育目標に基づき、より職業教育の充実を実践し、次の学習効果を目指す。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

自己評価

教職員による自己評価

3. 評価結果につて

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について目標を数値化し、その達成状況を確認しました。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。

定期的に進路指導を行い、進学希望者全員が進学いたしました。

- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

本年度は日本語能力試験 4 級以上の合格を目標に掲げて卒業年次の 1 2 月の試験まで指導に取り組んできました。

目標として掲げた各学年の合格率は次の通りです。

1 年生 3 5 %
2 年生 8 0 %

それに対して実績は次の通りです。

1 年生 27.5%

2 年生 80.6%

③学生の中途退学者の低減に努める。

本年度の中途退学者は在籍数の0%でした。今後も在籍管理を徹底し、中途退学者を低減させるよう努力して参ります。

(2) 自己評価

教職員による自己評価

専修学校における学校評価 ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。

問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

※具体的な評価項目と教職員による評価点は、別紙「令和5年度自己評価(日本語科)」参照。

4. 教職員からの意見・要望等への改善について

教職員からの意見・要望等が多くありましたので、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図っていきます。

5. 次年度の自己評価について

次年度の自己評価は、PDCAサイクルに基づき、組織的・計画的に行います。

(1) 教職員による自己評価

(2) 各教職員及び各学科・部署ごとの重点目標の設定と評価

6. さいごに

令和7年度は、少子化による18歳人口の減少や若年層の県外流出など、専門学校を取り巻く厳しい環境が続く中、本校においても学生募集や教育体制の充実に向けた様々な課題に直面した一年であった。

そのような状況の中、本校では文部科学省の学校評価制度に基づき、自己点検・自己評価を通じて教育活動および学校運営全般の見直しと改善に取り組んだ。特に本年度は、教職員による自己評価をより詳細に実施し、現状分析と課題把握に重点を置くことで、改善に向けた方向性を明確化することができた。

評価結果からは、学生支援体制や卒業後支援、教員研修体制、留学生支援、教育環境整備などにおいて改善すべき課題が確認された一方、地域との連携や職業教育への取組み、就職支援体制などについては一定の成果を確認することができ

た。また、各学科・部署において課題を共有し、改善に向けた具体的な検討を進めることができたことは、今後の学校運営における重要な成果であると考えている。

近年は、A I ・ I o T技術の進展や社会構造の変化に伴い、職業教育に求められる内容も大きく変化している。本校においても、時代や地域社会のニーズに対応した教育内容の充実を図るとともに、多様化する学生への支援体制強化や教育の質向上に継続して取り組んでいく必要がある。

今後も、本年度の自己評価結果を踏まえ、P D C Aサイクルによる継続的な改善を推進し、地域社会から信頼され、学生・保護者・企業から選ばれる学校として、質の高い実践的職業教育の充実と持続可能な学校運営に努めていく。

以 上